

安全・安心で持続可能な未来に向けた
社会的責任に関する円卓会議
第1回総会
議事録

内閣府国民生活局企画課

安全・安心で持続可能な未来に向けた社会的責任に関する円卓会議
第 1 回 総 会
議 事 次 第

日 時：平成 21 年 3 月 24 日（火）17:40 ～18:15

場 所：中央合同庁舎 4 号館第 1 特別会議室

1. 開 会
2. 内閣官房長官ごあいさつ
3. 運営規約について
4. 当面の審議方針について
5. 閉 会

○田中内閣府国民生活局長 ただいまから「安全・安心で持続可能な未来に向けた社会的責任に関する円卓会議」第1回総会を開催いたします。内閣府国民生活局長の田中でございます。本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

これまでこの円卓会議の発足に向けた準備は、国民生活審議会や内閣府に設置された準備委員会で進められてまいりました関係で、本日は、会長の互選までしばらくの間、私が進行を務めさせていただきますと存じます。よろしくお願い申し上げます。

議事に入ります前に、河村内閣官房長官より一言ごあいさつをお願いしたいと存じます。長官、お願いいたします。

○河村委員 本日は、皆様方には大変お忙しい中を「安全・安心で持続可能な未来に向けた社会的責任に関する円卓会議」に御参集をいただきまして、本当にありがとうございます。第1回の総会でございます。一言ごあいさつをさせていただきたいと存じます。

御承知のとおり、この円卓会議は、通常私どもが設置する政府の会議とは異なりまして、初めての枠組みになっております。その成り立ちも、各界を代表する方々に、共同設置者といたしまして設立趣意書にお名前をいただく形になっております。

本日は、共同設置者を代表して、麻生総理自らまいりまして、ごあいさつをする予定にしておりましたが、残念ながらどうにもならない所用がございまして、出席ができません。そこで、官房長官の私からごあいさつをさせていただくということで、御了承いただき、また、総理からは皆様へのメッセージをお手元にお配りさせていただいております。

さて、この総理のメッセージには「協働」という言葉がございます。地球温暖化や少子高齢化など、私たちを取り巻く課題の中には政府だけでは解決できない課題があり、多くの多様な主体が協働しなければならない、という趣旨でございます。

私は、実は、この円卓会議の発足自体が、まさに協働の産物ではないかと考えております。昨年来、準備委員会には、広範なセクターの皆様方にお集まりをいただきまして、時間をかけて円卓会議の設計を進めていただきました。御尽力をいただいた皆様方に改めて厚く御礼を申し上げます。

会議の名称にもありますように、今、私たちが真に果たすべきは、未来に向けた責任である。このように考えます。関係する主体が、短期的な利害を超えて、地球上の命、あるいは子どもたちの未来に向けて協働することが求められていると考えます。

円卓会議の審議を通じて、私どもが未来の責任に向き合って、これを果たせるように、皆様方におかれましても、引き続き、御指導と御協力を賜りますようお願いを申し上げまして、簡単でございますが、私からのごあいさつとさせていただきます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

○田中内閣府国民生活局長 ありがとうございます。

ただいま官房長官からも御紹介がありましたが、お手元の資料1にございますとおり、去る3月19日に、各グループの代表に趣意書に御署名をいただく形で、円卓会議の枠組みが発足いたしました。本日は、この枠組みの下で各グループから選出された初代の総会委員として、皆様にご参集いただいたところでございます。委員名簿は、お手元にお配りしてあるとおりでございますが、後ほ

ど、お時間があれば、御一言いただければと存じます。

次に、円卓会議の運営についての御議論に移りたいと存じます。まず、お手元の資料3に、準備委員会に御用意いただいた運営規約をお配りしております。こちらにつきましては、事前に皆様にお目通しいただき、御了解いただいているとのことで、基本的に総会として了承したいと存じますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

○田中内閣府国民生活局長 ありがとうございます。早速ではございますが、運営規約第4条の規定に基づき、会長の選出を行わせていただきます。どなたか御推薦がございましたら、お願いいたします。

星野委員、どうぞ。

○星野委員 僭越でございますが、私は、佐々木毅委員に会長をお願いするのが適当ではないかと考えております。何うところによりますと、佐々木委員は、国民生活審議会の会長としてこの円卓会議に御尽力をされた。また、ここで改めて申し上げるまでもございませんが、学識経験者としても、非常に幅広い高い御知見をお持ちの方でいらっしゃいまして、この円卓会議では、安全・安心で持続可能な、未来の社会と申しますか、非常に大きな問題に取り組まなければならない。そのためには、佐々木委員は非常にふさわしい会長でいらっしゃると思います。

○田中内閣府国民生活局長 ありがとうございます。ただいまの御提案について、皆様いかがでございましょうか。

(「異議なし」と声あり)

○田中内閣府国民生活局長 それでは、異議がないようですので、佐々木委員に会長をお願いしたいと存じます。佐々木委員、会長席への御移動をお願いいたします。

(佐々木委員、会長席へ移動)

○佐々木会長 ただいま選任されました佐々木でございます。よろしくをお願いいたします。

ちょうど20年前、竹下内閣で21世紀日本の構想につきまして議論していたときに、多様な主体を担い手とする新しい公の在り方ということを議論した記憶がございますが、その当時はなかなか条件が整わずといった面もございましたが、今日、こういう形で、この円卓会議が発足することになりましたことにつきましては、誠に感慨無量なものがあります。よろしく皆様の御協力をお願い申し上げます。

それでは、これからの進行は私が務めさせていただきます。

議事に入る前に、報道の皆様におかれましては、恐縮でございますが、ここでカメラの方は御退出をお願いしたいと思います。

(カメラ撮影関係者退室)

○佐々木会長 さて、運営規約第4条第3項の規定によりまして、会長代理を指名することとなっております。私といたしましては、日本環境教育学会の会長も務められ、長年、理論・実践の両面から持続可能な社会の実現に尽力されております小澤委員をお願いしたいと考えております。小澤委員、いかがでございましょうか。お願いできますでしょうか。

○小澤委員 はい。

○佐々木会長 ありがとうございます。よろしく願いをいたします。

それでは、早速ではございますが、当面の審議方針についての議論に移りたいと存じます。こちらにつきましても、準備委員会にて案を御用意させていただいておりますので、松本委員長の方から説明をお願いいたします。

○松本準備委員会委員長 準備委員長を務めておりました松本でございます。お手元の資料4のとおりに審議方針を御用意いたしました。ただ、こちらはあらかじめごらんになっていることと思いますので、本日は横長の参考資料の最後のページの図を基に要点のみを御説明したいと思います。

まず、審議体制につきましては、総会の定める基本方針の下に、戦略策定に向けた具体的な検討を行う場として総合戦略部会を設置してはどうかと考えております。この部会におきまして、協働戦略の骨格となる重点課題のリストを検討し、御提案いただいた上で、7月ころを目途に、この総会の場で「協働戦略の策定に向けた作業計画」としてとりまとめます。

そして、その後は、この作業計画に基づいて、個別課題ごとのワーキンググループで検討を深め、来春を目途に、各主体のアクションプランを集大成した協働戦略を策定してはどうかと考えております。

なお、緊急性を要する課題などで必ずしも全体の合意を要しないような項目につきましては、来春の協働戦略のとりまとめを待たずに、順次、取組に着手できることとしております。

以上でございます。

○佐々木会長 以上の準備委員会からの御提案につきまして、もし総会として、御異議がないようでしたら、本案を了承したいと存じますが、いかがでございましょうか。よろしゅうございましょうか。

(「異議なし」と声あり)

○佐々木会長 ありがとうございます。

それでは、ただいまの件、皆様に御了承いただいたということではありますが、そういたしますと、本円卓会議に「総合戦略部会」を設置するということとなります。各グループにおかれましては、部会委員の選出を行うとともに、協働戦略の中で取り扱うべき課題につきまして、各グループ内での検討を鋭意進めていただくようお願いを申し上げる次第でございます。

なお、この総合戦略部会につきましては、部会長の指名を会長が行うことになっております。言うまでもないことではありますが、本会の運営にとりまして、この総合戦略部会は言わば要の位置にございます。そういうことで、私といたしましては、誠に恐縮でございますが、円卓会議の制度設計をはじめ、これまでも準備に多大の御尽力をいただきました松本教授に、この総合戦略部会の部会長をお願いしたいと思っておりますが、お引き受けいただけますか。

○松本準備委員会委員長 はい。承ります。

○佐々木会長 ありがとうございます。それでは、松本教授に、この総合戦略部会の部会長をお願いするというので、先ほどのスケジュールに従った形で今後の総合戦略部会の運営を引き続きよろしく願いしたいと思っております。ありがとうございました。

それでは、時間を見ながらの話になって誠に恐縮でございますが、委員の皆様から、お名前と、円卓会議への御期待、それから、協働戦略で取り扱うべき課題について、現段階でのお考え等がございましたら、一言ずつ頂戴できればと思います。

ただ、本日は、皆様の御都合もございまして、18時20分までに会議を終了するよう厳命を受けておりますので、大変恐縮ながら、委員御本人が御出席の場合に限り、一言をお願いをするという形にさせていただかざるを得ません。

なお、事務局からは1人30秒とか何十秒とかいう注文がまいてっておりますので、時間を見ながら、会長として失礼なことになるかもしれませんが、その点はひとつ御了承のほどをお願いいたします。

それでは、渡委員からお始めいただけますでしょうか。

○渡委員 座ったままで失礼いたします。日本経団連の副会長を務めておりまして、企業行動委員長を務めております渡でございます。

経団連では、1991年に企業行動憲章を制定いたしまして、企業会員は、その精神を尊重しまして、自主的に実践することを申し合わせております。

この度の、世界同時不況等で経験したとおり、今日の経済的・社会的問題というものは、国境を越えまして、瞬く間に広がって、ますます多様化あるいは複雑化しております。こうした問題は、一企業だけでも、一産業界だけでも、あるいはまた政府だけでも解決することのできない問題になってきております。こういったことで、社会を構成するさまざまなセクターの代表が、知恵を持ち合わせながら、一緒に汗をかきながら解決を図っていくということ。まさに総理がおっしゃっています協働ということが大事だというふうに我々も認識しております。

そういったことから、本日、この円卓会議がスタートしたということは大変意義深いことございまして、経団連といたしましても、円卓会議における検討を踏まえまして、CSRの促進につなげていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○佐々木会長 ありがとうございます。それでは、小島委員お願いいたします。

○小島委員 経済同友会副代表幹事・専務理事の小島でございます。よろしくお願い申し上げます。

私どもとしても、安全・安心で持続可能な未来という課題に取り組むためには、政府、消費者は勿論ですけれども、企業の自覚も不可欠であると考えておりまして、この三者の信頼と協力なくして、これの実現はできないと思っております。

その意味で、今回のこの会合が、協働体制をつくっていくという意味合いにおいて大変意義のあることだと思っております。これからも、いろいろ議論を進めさせていただきたいと思っております。

よろしくお願い申し上げます。

○佐々木会長 ありがとうございます。山根委員、お願いいたします。

○山根委員 主婦連合会の会長の山根と申します。よろしくお願い申し上げます。

私は、円卓会議というものは議論を闘わせて結論を急ぐという、また白黒をつけるというのでは

なくて、それぞれの、いろんな立場の多様な人が多様な意見を出し合って、それを聞き合う場というふうに私自身は認識しております。本当に新しいコミュニケーションの形で、国民が育ち合う場でもあるというふうに大きく期待しております。

今、消費者庁の設立を待ち望んでおりますけれども、是非、消費者庁、そして、消費者教育の充実で、これまで望む消費者志向の社会ができればというふうに思っております。

よろしく願いいたします。

○佐々木会長 ありがとうございます。次に、下谷内委員お願いいたします。

○下谷内委員 全国消費生活相談員協会の下谷内と申します。よろしく願いいたします。

準備委員会から参加させていただきまして、この安全・安心で持続可能な未来へ向けた円卓会議につきましては、非常に関心を持っております。私ども消費者の目から見まして、積極的な発言と、ステークホルダー社会の皆様方と協働を進めていければと思っております。

本日はありがとうございます。

○佐々木会長 ありがとうございます。狩野委員、お願いいたします。

○狩野委員 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会、非常に長いものですから、NACSと呼んでおります。NACS副会長の狩野でございます。よろしく願いいたします。

今、消費者庁が審議中でございますが、消費者の問題一元化、あるいは世の中ではISOのSR化、SRのISO化が進んでいる中で、円卓会議、協働というキーワードで、全体の、このようないろんな、各界からの皆さんが集まって議論するのは初めての試みでもあるし、非常に期待をしております。

よろしく願いいたします。

○佐々木会長 ありがとうございます。次に、西原委員お願いいたします。

○西原委員 労働組合でございます連合の副会長をやっております、西原でございます。よろしくお願い申し上げます。

まず、連合として、この円卓会議の発足を心から歓迎したいと思えます。連合といたしましては、この円卓会議の大きな目的の一つであります、組織の社会的責任の促進といった観点から、特に企業行動が社会に与える影響の大きさ、このことを踏まえれば、とりわけ、企業の社会的責任の促進というものが、目指すべき社会像を構築していく上で大変重要であると考えております。

社会的責任を重視した企業経営の推進、あるいはすべてのステークホルダーに対する企業の情報公開の促進、更には、そういった企業の取組が社会から適正に評価される。そのことが、さらなる取組の前進につながる。そういった、いわゆる社会的仕組みづくり。このことに向けて、円卓会議が大きな役割を果たす、このことを期待したいと思えます。

連合といたしましても、円卓会議への参加を通じまして、我が国においてCSRが社会に根づく、このために職場あるいは地域を拠点に努力してまいりたい。このように考えております。

以上でございます。

○佐々木会長 ありがとうございます。岡本委員、お願いいたします。

○岡本委員 同じく連合の副会長をしております、岡本です。よろしく願いいたします。

安全・安心で持続可能な社会を目指す上では、私は、少子高齢化を克服して、年齢とか性別にかかわらず、個性や能力を発揮できる社会を目指すということが大変重要だろーと思っております。

その上で、今、個人的にも一番気にかかっているのが子どもたちの貧困問題です。親の経済的な困窮が子どもたちの教育の機会を奪っていることに対して、どのように対応していくのか。まさに、未来を担う子どもたちの問題を、この場でも議論することができたらいいなと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○佐々木会長 ありがとうございます。次に、上原委員お願いいたします。

○上原委員 三菱UFJ信託銀行の会長の上原でございます。

協働の観点からというふうに申し上げますと、いわゆる信託銀行の持っている機能、投資家であり、機関投資家であるといったような観点から今回の円卓会議に関わることができるのではないかと考えております。

いささかなりともお役に立てればと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

○佐々木会長 ありがとうございます。それでは、古賀委員お願いいたします。

○古賀委員 野村證券の会長をしております、古賀でございます。

今は金融が非常に混乱しているわけですがけれども、考えますと、世の中というもの、少し枠組みが世界同時に変わるような、そういうときを迎えているのかなという気がしております。

1つ言えるのは、ヒトもモノもカネも、瞬時に世界中、非常にスピーディーに動くようになってしまった時代になった。そうした中で、この安全・安心というものを考えるときも、単に今までの是正ではなくて、何か新たな枠組みをつくり出すとか、そういう発想に立たないと、何かもう一つめぐらないのではないかなという思いでおります。そういう見地から、いささかなりとも御貢献できたらというのが率直なところでございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○佐々木会長 ありがとうございます。堀田委員、お願いいたします。

○堀田委員 さわやか福祉財団の堀田でございます。

この円卓会議は非常に新しいアイデアで面白いと思いますが、この会議自体が持続可能なものになって、本当に国民に受け入れられるものになるためには、まずはテーマが、しっかり国民の心をとらえる。そのテーマについて、明るい未来が見える。そういうテーマが設定されなければいけない。そのテーマについて、これは各グループからの委員ということになっておりますけれども、広く国民全体、市民全体を見た、その市民の立場に立った議論をそれぞれがして、まとめていくということが大事ではないかと思っております。

私自身は、そういう心構えで参加させていただきたいと思っております。

○佐々木会長 どうもありがとうございます。それでは、星野委員お願いいたします。

○星野委員 1980年のインドシナ難民流出の辺りから、国際協力でNGOの仕事、また、阪神・淡路大地震の後には、国内におけるNPOと共に働き、一貫して30年ほど民間の非営利の仕事に関わってまいりました。

このNPO/NGOでは、今回の円卓会議のように、それぞれのステークホルダーが、今までは

別枠で、それぞれ力を尽くしているわけですが、お互いに話し合う機会がない。そういう必要性が十分あり、また、そうした場づくりが今後、広がりを見せるのではないかとということで、昨年の5月1日に、「社会的責任向上のためのNPO/NGOネットワーク」少し長いのでNNネットと呼んでおりますが、そうしたネットワークを立ち上げました。僭越でございますが、堀田委員も、太田委員も、私を含めまして3名がそこから選出されてこの円卓会議に参加しております。したがって、今後、このNNネットで、これからも新しい議論を煮詰めようとする人たちと密接につながりを持って、私も、この円卓会議に参加したいと考えております。

よろしく申し上げます。

○佐々木会長 ありがとうございます。太田委員、お願いいたします。

○太田委員 私は、公益法人協会の理事長を務めております太田でございます。

公益法人とか、あるいは特定非営利活動法人—いわゆるNPO法人でございます—それから、社会福祉法人とか、いろいろ非営利の公益を担う法人というものはたくさんあるわけでございますけれども、政府でもなく、あるいは営利企業でもない、いわゆる非営利セクターと申しましょうか、第三セクターと申しましょうか、こういうセクターが日本でも、これからやはり大きくなっていかないと、これからの日本の社会は本当によくなっていかないと私どもは確信いたしております。

そのように、この非営利セクターが、今後、英米同様に急激に役割が高くなり、また、その影響力も強くなるというような機運の中で、この非営利セクターというものも、各セクターと御一緒に、いろいろ議論ができるという場を与えていただきましたことは、大変私ども感謝いたしております。

今後、他のセクターの方々と協働の在り方について、あるいは社会的責任の在り方について、どう考えるかといったことを真剣に議論をしていきたいと考えております。

○佐々木会長 ありがとうございます。

ここで、途中で御予定のため中座されます二階委員から、少し順番があれですけれども、一言いかがでございますか。

○二階委員 どうも済みません。今日はすばらしい円卓会議がスタートできましたことをうれしく思います。

市民の企業に対する意識というものは大きく変化しておりますが、企業がその活動に当たり、こうした変化を踏まえて、これから対応していただくことが大事だと思っております。その社会的責任というものは、いちいち規制的な手法に頼ることではなくて、あくまでも自主的な取組みとして、進められることが望ましいと考えております。

経済産業省は、これから、この円卓会議の御議論を通じ、私たちのできる範囲において、しっかりとした貢献をしていきたい。このように思っております。

以上です。

○佐々木会長 ありがとうございます。よろしくをお願いいたします。

それでは、また少し順番が戻ってしまうんですけれども、樋口委員、いかがでしょうか。

○樋口委員 慶應大学の樋口でございます。専門は労働経済学を長くやっております。

安全・安心で持続可能な社会を形成する上で、やはり足下における失業問題、あるいは雇用問題

をいかに解決していくか。特に就業支援の問題を考える上で、これは政府だけではどうしても実行ができない、あるいは新しい仕組みといったものが必要なのではないかと思っております。

また、少子高齢化の下において持続可能な社会にしていく上では、ワーク・ライフ・バランスの問題というものも避けて通れないと思います。仕事と生活の調和の促進を進めるといった上で、政府であるとか、あるいは政労使だけでは解決できないというような問題が多くなってきているわけでありまして、やはり資本主義社会が新しい局面に入ってきている。あるいは社会の構造が、世界的な構造が大きく変わってきているという中において、多様なセクターによる協働戦略というものがどうしても必要だというような視点から、この円卓会議に参加させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○佐々木会長 ありがとうございます。次に、齊藤委員お願いいたします。

○齊藤委員 私は、日本弁護士連合会で、昨年3月に公表しました、企業の社会的責任に関するガイドラインを中心になってまとめた者です。CSRのPTの座長をしております。

実は、弁護士は最近、日本CSR普及協会というものを設立しまして、つい先ごろ、非正規雇用に関するセミナーを開催しました。これは、今まで三池以来、宿敵でありました経営側の弁護士と労働側の弁護士、それぞれが企業の社会的責任ということで、お互い協働して内容の濃いセミナーを開催することができました。かように、今の企業の社会的責任というものは、つまり、今の新しいパラダイムというものをつくり上げる大きな要素だろうというふうに、それを見て、私は痛切に感じました。

私は専門家委員ということで、ここの大事な協働戦略をまとめ上げるために、精いっぱい努力といたしますか、御援助をしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○佐々木会長 ありがとうございます。次に、小澤委員お願いいたします。

○小澤委員 私は、民間の研究所を経て、約40年近く環境教育を通して、教育を考えてきた者です。それで、環境教育学会の会長もさせていただいておりますが、もうすぐ任期が切れますけれども、地方でいろんな環境教育の実践を見ておりますと、非常に変革というものは遠いところで起こっているという実感をしていたのですが、今日、この日は、日本の中心でも変革が起こっているのかなということで、期待したいと思います。

ただ、そのときに、司馬遼太郎さんが、20世紀の終わりに『二十一世紀に生きる君たちへ』、これは国語の教科書にも載っているエッセイですけども、やはり人間の社会の中で不変の価値は自然であるということをおっしゃっているんです。それは、私たちは自然の恵みをもらって生活している。そこに私たちは人工的な社会をつくってきているわけですから、その枠組みをどう考えていくかというところで、私自身は教育を通して、未来をつくる力というんでしょうか、そういうものを育成して次世代のリーダーを育てていきたいという思いを持っておりますので、微力ですが、私も皆様とともに参加させていただきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○佐々木会長 ありがとうございます。

それでは、こちらの列になりますが、石破委員は、今日は御欠席でございます、代わりに石田

農林水産副大臣が御出席でございます。御紹介申し上げます。

○石田農林水産副大臣 よろしくお願ひいたします。

○佐々木会長 それでは、次に、斉藤委員から一言お願ひいたします。

○斉藤委員 政府だけでは解決できない、みんなで働かなければ、一つの大きな対象が、今、小澤委員からございましたけれども、地球温暖化問題などの環境問題だと思います。

今、世界でグリーン・ニューディールということで、環境を切り口に経済を活性化させていこうという動きがありまして、我々もその方向で頑張っているんですが、グリーン・ニューディールと言わないで、我々は緑の経済と社会の変革と呼んでおります。経済を活性化させる。その面も大切なんです、もう一つ、我々のその切り口で、社会そのものを変えていこう。例えば、同じ投資するのであれば、環境にやさしい企業に投資しよう。また、同じものを買うのであれば、環境に配慮したものを買おうといったことから世の中を変えていく。まさに環境教育ということ、また、環境人材の育成ということなのではないかと思ひます。

そういう面で、この場で我々も発言をしていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願ひいたします。

○佐々木会長 ありがとうございます。それでは、次に舛添委員からお願ひいたします。

○舛添委員 昨日、雇用問題で、政労使の協働で一致した政策を打ち出しましたけれども、社会保障を担当してしまひて、我が国の社会保障は自助、共助、公助という3本柱で成っています。

その中で、私は共助、ほかの言い方をすると、社会的連帯であるとか、ナショナル・ソリダリティー、国民的連帯。こういうものが、今、一番欠けているのではないかなという気がしておりますので、こういう場で皆さんとともに、社会保障についても、安全で安心して生活できる社会構築のためということで、その社会的連帯ということが、これからの未来に向かって大きく羽ばたけるように努力をしたいと思っております。

以上です。

○佐々木会長 ありがとうございます。

それでは、最後になりましたが、これまで準備委員会の担当大臣として、円卓会議の制度設計を統括してこられました野田委員にも一言お願ひいたします。

○野田委員 まず、この場をお借りいたしまひて、準備委員長はじめ、円卓会議の制度設計に御尽力いただきましたこと、心から御礼申し上げます。円卓会議は、官民のさまざまな主体が対等な立場で参加し、互いの知恵と力を結集する、全く新しい試みということで、この野心的な構想が、本日ここに実現したのも、本当に皆様方の御協力のおかげです。ありがとうございます。

今もずっとお話がありましたように、取り扱うべき議題はさまざまですけれども、私は先ほど山根委員から言われました消費者庁を担当している大臣としても「持続可能な消費」というものをテーマに、企業と消費者と社会の3者がともに持続可能になるような環境づくりとかを議論していただければと思ひています。特に、環境問題とか消費者に真摯に向き合う企業こそが市場から評価される仕組み、また、官民が協力した、消費者への環境教育とか安全教育などがとても重要だと思っております。

いずれにしましても、微力ですけれども、委員の一人として精一杯頑張りますので、皆様の御協力で、この会議こそ持続可能でありますことを心から願ひまして、あいさついたします。よろしくお願ひします。

○佐々木会長 ありがとうございます。

河村官房長官からは先ほどごあいさつをいただきましたので、これで一通り、皆様からお話をいただいたということで、大変いろんな点で貴重な、刺激的なお話をいただいたと思っております。

今日いただきました御意見も参考に、松本部会長の下で、総合戦略部会におきまして、更に具体的な検討を進めていただければと存じております。

今日は大変、皆様の御協力が見事だったものですから、大分セーブをすることができました。ここでもう一言と言うと、とかく失敗することが多いものでございますから、本日はこれにて第1回総会を閉会とさせていただきます。

お忙しいところ、ありがとうございます。今後とも、よろしくお願ひいたします。(拍手)